

理工ボート部の思い出と、海外赴任先での旅行の思い出

21期 道関直人



皆さん、こんにちは。

理工ボート部21期、管理工学科卒業の道関です。

卒業後、就職先の配属が滋賀県、また、現在定年後の再雇用も大阪での単身赴任と、生活拠点が関西となり、ボート部の集まりにはほとんど参加できておらず、申し訳ありません。

今回、このような投稿の機会を頂きましたので、ボート部の思い出と、就職～配属後、海外赴任先での旅行の思い出について書かせて頂きます。

就職を控える現役の皆さんや、旅行好きの方々の参考になればと思います。

1. 理工ボート部の思い出

ボート部に入部したきっかけは、私の父が学生、社会人でボートを漕いでいたことから、興味があったことが第一でした。

そのような中、本チャンのボート部ではなく、それほど体力に自信がある訳では無い私でも続けられそうなサークル活動として理工ボート部の存在を知り、迷わず入部しました。

入ったからには、とにかく最後までやり切ることが目標でしたが、なんとかその目標は達成することができミニオールを頂いて、卒業することができました。

今回改めてWebに掲載されている理工ボート部の沿革を調べたところ、卒業後、部員の減少による廃部の危機にあった時期などを乗り越えて今があることを再認識致しました。

その時々で部の存続や活性化に尽力された皆様に敬意を表するとともに、その方々のお陰で、私もこのようにOBOG会のメンバーとして、名前を連ねることができることに感謝申し上げます。

ボート部の思い出は、いつどんなレースに出たか等の細かいことはあまり覚えていないのが正直なところですが、残念ながら良い結果を残した記憶はありません。

そのような中で、やはり一番記憶に残っているのは、S57年、1年生の時の全日本新人選手権で、エイトで出漕させて頂いたことです。この時が、エイトを漕いだ唯一の経験となりました。

この年、我々1年生が5人、2年生の先輩が4人であったことと、先輩方がどこからか、古い艇を借りてきて下さったことにより、中々経験できないエイトでの出漕が叶ったものです。

レースは審判艇にも抜かれるような残念な結果でしたが、できることはやったという達成感がありました。

荒川での長距離練習もこの時に経験しましたが、漕ぎの練習よりも、行き帰りに担いだ、肩に食い込む艇の重さが印象に残っています。



S57 全日本新人選手権(本人7番)



本人右から4人目

戸田以外では、相模湖レガッタの遠征が楽しかったですね。レースの結果は覚えていませんが、初めて湖で漕いだ時に、水をキャッチした時の手応えがこんなに違う(軽い)のか、と思ったことが印象に残っています。



S57年(と思う) 相模湖 本人3番(と思う)



S58年 相模湖 本人右端

あとは、戸田での合宿生活ですね。

1年生の時の合宿は、2年生、3年生の先輩とともに、あの部屋に14~5人だったと思いますが、場所が無いので先輩方は押し入れに頭を入れて寝ておられたと思います。

朝、起床当番の掛け声で始まり、体操、ランニング、乗艇、飯炊き当番など懐かしく思い出されます。

4年生になると、居なくてもいいのに合宿所に入り浸っていたような気がします。



4年生の時、新入部員のコックスを務める



4年生の時、レースの応援に(本人後列左端)

2. 就職について

私が卒業・就職した1986年は、いわゆるバブルの時期であり、就職活動に頑張った、苦勞した思い出はほとんどありません。

その後の就職氷河期と呼ばれる時期に、苦勞して就職された方々のことを思うと、本当に運が良かったとしか言えません。

就職先は、ベアリングで知られる日本精工(株)です。

この会社を選んだのは、同じ卒研で、埼玉県羽生市出身のKさんが、自分は日本精工以外は考えていない、という話を聞いたことがきっかけでした。

日本精工は、当時から多数のベアリング生産工場を持っていましたが、その内の一つが羽生市にあり、地域ではかなり有名な会社だったようです。

Kさんの話から、日本精工について調べたところ、ブラジル、アメリカ、イギリスにも工場があることを知り、この会社に入れば、希望の一つであった、海外で仕事をするチャンスがあるかもしれないと思った次第です。結局Kさんと一緒に採用試験を受け、二人とも無事合格することができましたが、その後、Kさんは本社の情報システム部、私は滋賀県の大津工場に配属され、ほとんど顔を合わせることなく、お互い定年を迎えることになりました。

3. 配属先と仕事の内容

1) 配属先について

最初の配属先は、滋賀県の大津工場です。

この後、3回の海外工場出向(駐在)を経験しますが、その都度この大津工場に戻り、定年までお世話になりました。

大津工場は、琵琶湖の最南端で瀬田川につながる境界、目の前が琵琶湖という場所に立地しています。

琵琶湖(瀬田川)で漕いだことのある方は、工場の看板(NSK)を目にされたかもしれません。

以前は、工場の前の通りがびわ湖毎日マラソンのコースとなっており、選手が通過する時に会社の旗を振っているところを、一瞬ですがテレビに映ったこともありました。

住まいは瀬田、工場は石山で、電車でひと駅でしたが、毎朝、電車の中から、瀬田川で練習しているボートを見ながら通勤していました。

私は、このように、ボートが漕ぎたいと思えばいつでもできる環境にしながら、結局一度も漕いだことがありませんが、卒業後もボートを続けたいと思っている方には滋賀県(大津市)は就職先の候補としておすすめできる場所だと思います。

2) 仕事の内容

管理工学科の卒業ということが関係していると思いますが、工場での配属は、品質保証課となり、結局定年までこの部署で過ごし、現在の再雇用先でも品質保証の仕事を担当しています。

品質保証といっても、業種や会社によってその業務内容は違うのですが、時々ニュースになる、試験やデータの改ざんなどがあつた場合、矢面に立たされるのが品質保証部門となります。

品質保証部門の役割は、製品に対する品質の確保と、不具合が発生・流出しないために、各工程に対して適切な品質保証方式を設定し、それを維持、改善することです。

また、不具合が発生・流出した時には、そのリスクを最小限にするための判断・指示を行ない、その後再発しないための是正処置(再発防止対策:ルールやしくみの見直し)を行なうことです。

ただ、残念ながら不具合や問題は度々発生しますので、この仕事で何をしてきたかと聞かれた時に頭に浮かぶのは、やはりクレーム対応です。

幸い、私自身はリコールにまで発展した大きな問題は経験していませんが、それに近いことや、徹夜で報告書を書き、その足でお客様に報告に行くような辛いことは、何度も経験しました。

いつ起こるか分からないクレームや、起こった時の辛い対応を気にしなくても良い生活には、あと数年、引退までもう少し頑張る必要があります。

4. 海外赴任での旅行の思い出

海外で仕事ができるかもしれないことが日本精工を希望した第一の理由でしたが、念願叶い、3回の海外赴任(駐在)を経験することができました。

ブラジル、ポーランド、アメリカの3ヶ国です。その他、出張ベースでは、中国、インドを経験しました。

それぞれの国での駐在期間中、旅行で訪れた場所と思い出について、紹介致します。

1) ブラジル(1995年~2001年)

ブラジルには、サンパウロから約50Km東に位置するスザノという町にある工場に赴任しました。

赴任時、まだ1歳にならない長女と、妻の3人でしたが、ブラジル赴任中に次女が生まれました。

赴任期間は5年であり、二度と来ることは無いことから、とにかく色んなところに行こうと思い、帰国するまでに、車で10万キロ走るという目標を立てました。

通勤距離は往復5キロ程度でしたので10万キロは相当しんどかったですが、何とか達成することができました。乗っていたブラジル製の車(FIAT ELBA)も良く走ってくれました。

車だけでなく、飛行機での移動も含め、主な旅行先について、紹介します。

①ブラジル南部一周旅行(車)

ブラジルでは日本と季節が逆であり、夏休み(12月~1月)が長く、2週間以上あったことを利用して赴任した2年目の夏休みに、アルゼンチン、ウルグアイを含め、サンパウロから南部を一周する計画を立て、出発しました。

計画:スザノ~ロンドリナ~イグアス~ウルグアイアナ~ブエノスアイレス~モンテビデオ~ポルトアレグレ~フロリアノポリス~クリティバ~スザノ

この旅行での思い出は、何と言っても2日目のイグアスで追突事故を起こしてしまい、車が走行不能となったことです。

事故の原因は相手側にありましたが、車はイグアスで修理に出すことになり、そこで足が無くなってしまいました。このまま引き返すことが悔しかったため、レンタカーを借りて、残りの旅行を継続しました。

ただ、レンタカーでは国境を超えることができず、アルゼンチン(ブエノスアイレス)、ウルグアイ(モンテビデオ)については諦めざるを得ませんでした。この部分をショートカットし、それ以外のところは、予定通り回ることができました。

なお、レンタカーでスザノまで戻ってきた数日後、何とイグアスの修理屋が、修理した車を自分で運転し、1,200キロ離れたサンパウロまで、届けてくれたことには驚きました。

このようなアクシデントにより、私にとっては今でも最も印象深い旅行となっています。



途中のガソリンスタンドにて



フロリアノポリス



クリチーバ

②イグアスの滝

世界3大瀑布の一つ、イグアスの滝は、4~5回行ったと思います。

季節によって、水の量や色が全く違う景色は、何度行っても飽きませんでした。

ブラジルでの居心地が良かったことから、当時独身であれば、会社を辞めてイグアスの日本人観光客向けガイドとして永住していたかもしれません。



イグアスの滝①



イグアスの滝②



イグアスの滝③

③リオデジャネイロ

リオも、何回か訪れたところですよ。

リオと言えば、やはり有名なカーニバルでしょう。カーニバルに限ったことでは無いかもしれませんが、映像で見る・聞くのとは大違いで、実物の美しさと迫力はあの場でしか味わえない貴重な体験でした。次に有名なのが、コルコバードの丘のキリスト像だと思います。

今は、専用の登山列車でしかこの丘には登れないはずですよ。

当時からの登山列車はありましたが、私は、この丘を車で上りました。

車で上るにはファベラと呼ばれる貧民街を通り抜けるため、とても危険な行為ですので、日本人で車で上った人は少ないと思います。

思い返すと、ブラジルでは色々と無茶なことをしており、同じことは人には勧められません。



コルコバードの丘



カーニバル



マラカナン・スタジアム

④オウロ・プレット

リオデジャネイロ経由でオウロプレットまで行ったこともありました。

17世紀に金で栄え、1980年にその街並みがブラジル初の世界遺産に登録されたところです。内部がふんだんに金箔で覆われた教会や、美しい町並みが印象的でした。



オウロ・プレット①



オウロ・プレット②

⑤マナウス(アマゾン)

せっかくブラジルに来たのだから、ということで帰国前にアマゾンの都市マナウスにも行ってきました。さすがに自由に動けるところでは無く、一般的なツアーに参加したのですが、アマゾンのイメージとは異なる都市のマナウスでは、市内観光、美しいアマゾナス劇場、見知らぬ魚や巨大な果物が売られている中央市場などを見学しました。

また、アマゾン川クルーズでは、白い川と黒い川が交わる場所を見たり、「なまけもの」を触ったり、世界最大の淡水魚ピラルクーの唐揚げを食べたりする体験をしました。



アマゾナス劇場



白い川と黒い川が交わる

⑥ブエノスアイレス(アルゼンチン)

ブラジルではありませんが、アルゼンチンのブエノスアイレスも何回か訪問しました。

最初の目的は、一般的な観光でしたが、その時に見たタンゴショーに魅了され、以降の訪問はタンゴショーがメインとなりました。

リオのカーニバルとは全く規模が違います。間近で生で見るダンスと演奏、歌が素晴らしく、行く度に異なったタブラオ(タンゴショーの舞台を備えた酒場、レストラン)を訪問し、ショーを楽しみました。また、私の旅行は食べることの優先度は低く、簡単に済ませることが多いのですが、アルゼンチンで食べた分厚いステーキは、今でも、私が食べた中で一番おいしいステーキだったと思います。



タブラオ(El Viejo Almacen)



タンゴショー

⑦ラプラタ川、モンテビデオ(ウルグアイ)

世界で一番川幅の広い川(270km)で知られるのが、アルゼンチンとウルグアイの国境を流れるラプラタ川です。

この川を渡らずに日本には帰れないと思い、タンゴショーを見に行った帰り、エノスアイレスと対岸のモンテビデオ(ウルグアイ)を結ぶ高速船に乗りました。

時速約70km、2時間45分の乗船であり、本当に川なのかと思いましたが、水は茶色く濁っており、確かに海の色では無いなと納得したことを覚えています。

2)ポーランド(2005年~2011年)

ポーランドは、ワルシャワから約180km南に位置するキエルツェという町の工場に赴任しました。

ポーランドは、6ヶ国と国境を接していますが、その内の1つが、今ロシアから侵攻を受けているウクライナですが、キエルツェからウクライナ国境までは300km程しかありません。

キエルツェには、単身で赴任しましたが、そのお陰で自由に行きたいところに行き、見たいものを見てきたということでは、この5年間は仕事以外では、好きなことができた期間となりました。

赴任したのが12月でしたが、この年の冬は雪も多く、寒い年でした。

キエルツェでは、冬は -25°C (私が経験した最も気温が下がった日)にもなるほど、寒いのですが、工場や家は全てセントラルヒーティングであり、建物の中では半袖で過ごせるほど暖かく、寒さを感じることはほとんどありません。

帰国したのが、2011年2月ですが、日本の冬が本当に寒く感じました。

私は良く笑い話で、ブラジルは寒かった、ポーランドは暑かった、という話をします。

「ブラジルは寒かった」の意味は、ブラジル(サンパウロ)の夏は確かに暑いのですが、湿気が少なく、日陰や家の中に入ればわりと涼しく、エアコンが無くても、過ごせます。一方、冬は 10°C 近くまで冷え込むことがありましたが、暖房機器がないため、とても寒いのです。

「ポーランドは暑かった」の意味は、冬は -25°C にもなる程寒いのですが、建物の中はどこも暖かく、外を出歩くようなことはないため、ほとんど寒さを感じる場面がありません。

一方、夏は 30°C 以上まで上がることがありますが、家や工場にはクーラーはなく、とても暑いのです。旅行については、ブラジルの時のように、ポーランドでも車でできるだけ色々なところに行こうと決めて、赴任しました。

ブラジルの時との違いは、世の中にポータブルナビが発明されており、それを購入したことにより、行動範囲が広がったこと、更に3年目以降は格安航空の存在を知り、ポーランド以外のヨーロッパの国々に容易に行けることを経験したことでした。

ポーランドで乗っていた車は、真っ赤なアルファ・ロメオ147です。この車は、前任の駐在員から買ったものでしたが、イタリア車らしく、故障は多かったですが、車が動かなくなるほどの大きな故障は無く、良く回るエンジンで、5年間楽しくドライブができました。

飛行機の移動も含め、主な旅行先について、紹介します。

①アウシュビッツ・ビルケナウ

悲惨な歴史ですが、ポーランドといえば、アウシュビッツが一番有名な場所だと思います。

12月に赴任し、車を手に入れて最初に訪れたのが、アウシュビッツでした。

赴任先のキエルツェからは、180km程の距離ですが、雪が積もっていたこと、慣れないところで地図と看板を頼りに運転すること、また、冬は日が短く、夕方4時には真っ暗になることから、開館時間の7:30に入り、何かあったとしても明るい時間に帰って来られるよう、朝まだ暗い5時ごろに出発しました。

無事開館時間前に着くことができましたが、辺りは雪が積もっており、まだ日が昇っておらず暗い状態でした。このような時期に開館時間に来るような人はいないようで、私がこの日の一番目の訪問者となりましたが、博物館の職員の方が、30ほどある赤レンガの建物(収容所跡)の鍵を順番に開けて行くのに、後ろから少し遅れて付いて行くような形で建物の中を見学することになりました。

ただ、誰もいない建物には怖くて入れず、入り口からそっと中を覗くことしかできませんでした。

その後、ビルケナウ収容所に移動しましたが、氷点下で、雪が積もっており、履いていたスニーカーでは足が冷たく、我慢ができず、入り口の塔から約800m離れたモニュメントまではたどり着けずに途中で引き返す結果となりました。

その後、何回かこのアウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所には訪れましたが、まだ薄暗い朝、雪が積もり、氷点下、観光客が一人もいない状況であったこの日の訪問が一番印象に残っています。

②4ヶ国周遊

ワルシャワ～クラコフ～プラハ(チェコ)～チェスキークルムロフ(チェコ)～ザルツブルグ(オーストリア)～ウィーン(オーストリア)～ブダペスト(ハンガリー)～キエルツェ

5年間の駐在期間の中で1回、家族を呼び寄せることができる会社の制度を利用し、夏休み、大きなレンタカーを借りて上記のルートを回りました。

一週間という限られた日程の中で、かなり詰め込んだ計画を立てましたが、迷わずに行動できるよう、これらの場所は事前に個別訪問し、予行演習を行っていました。

その甲斐あって、厳しいスケジュールでしたが、全て予定通り回り切ることができました。
家族全員での旅行ということでは、この旅行が最初で最後といえるかもしれません。



ワルシャワ(ポーランド)



クラコフ(ポーランド)



プラハ(チェコ)

③ポーランドの世界遺産

ポーランドの国土面積は、日本の約4/5ですが、日本と違い、ほぼ丸い形をしているため、キエルツェから最も遠いところでも、500km程です。

赴任した最初の3年間は、とにかくポーランド国内を車で走ることに頑張りました。

ポーランドの世界遺産が、当時11ヶ所だったと思いますが、これらを全てを制覇することを目標とし、達成することができましたが、これは、私の自慢の一つとなっています。

④その他のヨーロッパの国々

赴任後の3年間は、ポーランド国内を頑張って回ったのですが、ヨーロッパの近隣の国々に簡単に、安く行ける格安航空が色々あることを知り、以降はこの格安航空を利用して国外に出ることが増えました。

これらの格安航空は、朝が早い、帰りが遅い、という制約がありますが、国外の日帰り旅行を可能にしてくれるため、滞在は短く、色々な場所に、安く行く、という私の旅行スタイルにぴったりとマッチしたため、頻繁に利用することになりました。

予約のタイミングにもよりますが、2ヶ月程前から計画しておけば高くても片道1万円程度でしたので、本当に助かりました。

このような格安航空を利用して行った国は、ドイツ、イギリス、スペイン、フランス、イタリア、クロアチアなどです。

⑤ヨーロッパの有名美術館、博物館めぐり

美術が特に好きだ、ということではありませんが、教科書に載っている絵画や彫刻の実物が間近で見られるということで、世界的に有名な美術館、博物館を精力的に訪問しました。

大英博物館(ロンドン・イギリス)、プラド美術館(マドリッド・スペイン)、ルーブル美術館(パリ・フランス)、バチカン博物館(ローマ・イタリア)、ウフィツィ美術館(フィレンツェ・イタリア)、アカデミア美術館(フィレンツェ・イタリア)、国立考古学博物館(ポンペイ・イタリア)などです。

ミラノ(イタリア)では、レオナルド・ダ・ビンチの「最後の晚餐」も見ました。

3)アメリカ(2016年～2017年)

アメリカでの駐在は2年間と短いものでしたが、その中でも行きたい所には行った、ということでは、満足して帰って来ることができました。

アメリカの工場は、アイオワ州のクラリンダという小さな町に位置しています。

日本では、グレン・ミラー生誕の地ということで、知られている町です。

私は、車での旅行が好きで、長距離運転も平気な方ですが、さすがにアメリカでの車の旅行は考えませんでした。車では、国が大き過ぎて一日、二日の休みではどこにも行けません。

以下に限られた時間を利用して行ってきたところを紹介します。

① グランドキャニオン

グランドキャニオンの名所を1日(1, 200km、15時間)で行って帰って来る、ラスベガス発の弾丸バスツアーに参加しました。

金曜日の終業後、車で2時間の最寄り空港オマハからラスベガスに向かい、土曜日の早朝バスツアーに参加、夜11頃ラスベガス帰着、日曜日にラスベガスからクラリンドに戻るとい、私の旅行ではよくあることですが、その中でもかなりの強行スケジュールとなりました。

弾丸ではありましたが、アメリカの広大な自然を十分に体感することができました。



アンテロープキャニオン



モニュメントバレー



グランドキャニオン

② ニューヨーク、ボストン

ニューヨークとボストンは、メトロポリタン美術館(ニューヨーク)とボストン美術館(ボストン)を見るのが目的でした。

美術館以外の観光はほとんどしていませんが、ニューヨークでは、市内の名所を周回する観光バスに乗りました。

バスの中から、自由の女神像が見えましたが、陸からはあんなに遠く、米粒のようには見えな思いませんでした。

この旅行で、アメリカの二大美術館を訪問したことにより、ヨーロッパと合わせて、世界的有名美術館のかなりを制覇できたのではないかと考えています。



メトロポリタン美術館(ニューヨーク)



ボストン美術館(ボストン)

③ ナイアガラの滝

ナイアガラの滝は世界三大瀑布の一つです。三大瀑布とは、ナイアガラの滝(アメリカ)、イグアスの滝(ブラジル・アルゼンチン)とヴィクトリアの滝(アフリカ)です。

イグアスの滝はブラジルで見てその凄さを実感しましたが、もう一つのナイアガラと比べてどうなのか、ということがずっと気になっていました。

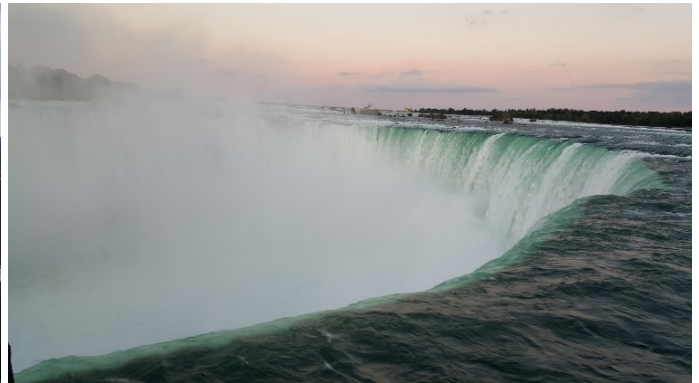
このアメリカ駐在で、長年気になっていたことに答えを出したいと思っていました。

人それぞれ見方がありますが、私としては、規模と迫力という点で、イグアスの凄さを再認識する結果となりました。ナイアガラがしょぼいということではありません。

荒々しいイグアスに対し、上品なナイアガラといったイメージですが、私の中で、気になっていたことの
一つが解消できた旅行となりました。



ナイアガラの滝(左:アメリカ滝、奥:カナダ滝)



カナダ滝(横から)

④ケネディ宇宙センター

フロリダのケネディ宇宙センターに、日帰りで行ってきました。

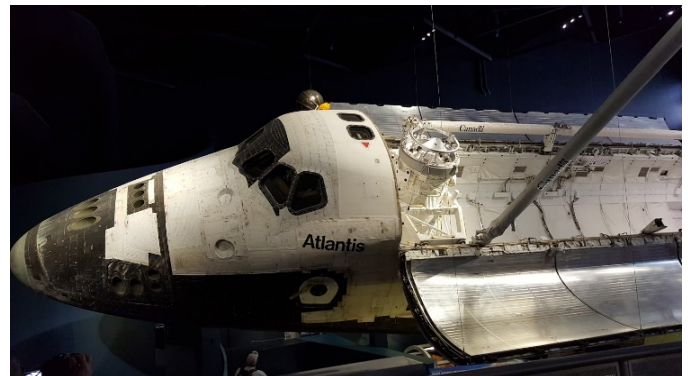
実際の管制塔や発射台、本物のロケットやスペースシャトルを見てきました。

それらの見せ方も非常に上手く、さすがエンターテイメントの国、アメリカと思われました。

バスを降り、大きな建物に入ると、中には何にもなく、前の壁に短編映画が流れた後、雰囲気盛り上げるBGMとともにその壁が左右に開いた先に本物のスペースシャトルが現れた時は、感動で鳥肌が立ちました。



ケネディ宇宙センター



スペースシャトル

⑤アメリカ大陸横断鉄道

アメリカ大陸横断鉄道は、アメリカの東西、シカゴ⇄サンフランシスコ間を50時間かけて走る列車です。
この列車に乗りました。

始発駅のシカゴから乗りたかったのですが、土・日しか時間が取れず、金曜日の終業後、最寄りの
停車駅オマハ(クラリダから車で2時間)から乗車し、終点サンフランシスコまで行き、帰りは飛行機で
戻るスケジュールとなりました。

途中駅からの乗車ですが、それでも44時間の長旅です。

この列車に興味はありましたが、途中で飽きてしまうことが心配で、運賃も安くはないことから、乗る
ことに躊躇しましたが、結果的にその心配は無用でした。

途中駅のホームに、喫煙のため短時間降りる以外はずっと列車の中で、本を読んだり外の景色を
眺めているだけですが、移り変わる景色に全く飽きることはありませんでした。

機会があれば、ぜひまた乗りたいと思っています。



アメリカ大陸横断鉄道 (Amtrak)



ロッキー山脈超え



砂漠

以上が、私が日本精工で、海外駐在のチャンスを利用して訪れた国や地域の紹介です(一部ですが)。就職の際、何気なく海外で仕事ができるかかもしれないと思って入社しましたが、このようなチャンスを頂き、貴重な経験ができたことについて、本当に感謝しています。これから就職を控える現役の皆さんや、既に企業で働いている皆さんの中で、海外を含む転職の話があった際には、状況が許す限りですが、積極的に行かれることをおすすめします。新しいことに出会い、体験することができる、絶好のチャンスだと思いますから。

5. 近況について

一昨年、日本精工を定年退職し、現在は大阪(富田林)にある、日本精工のグループ会社に再雇用でお世話になっています。担当は、相変わらず品質保証です。

自宅は滋賀県ですので、大阪ではアパートを借りての単身赴任です。

ポーランド、アメリカに続く単身赴任ですが、今回は日本国内のため、生活面での不自由は無く、休日の近郊ドライブや、関空発の格安航空を利用しての九州弾丸旅行など、楽しんでいます。

訪問した場所は記録を残す意味でGoogleマップに投稿(ほとんどコメント無しですが)していますので、興味のある方は検索してみてください。

仕事の方は、今までやって来たように、毎日、自分ができることを精一杯やるしかないと考えていますので、引退まであと数年ありますが、何とか乗り切っていきたいと思っています。

以上